



一隅を照らそう
7月号

354号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



自己をよくととのえる

住職 中島 有淳

神社、仏閣は日本中どこに行っても在り、自然な形で融け込んで風景となっています。宗教という言葉は英語の訳で、その背景にはキリスト教のことを示しています。そこでの意味は契約社会であり、日本人には馴染めない世界なのでしょう。

仏教徒の日本人に「何宗ですか」と問うと「さて？」と困り、はつきりと答える人は以外と少ないのです。まして家の宗教を答える人はいても、自分の宗教(仏教)を特定して答える人は少ないといえます。つまり個人の宗教というより、家の「先祖代々」の宗教という気持ちで手を合わせているということなのでしょう。これは包容性があり、なんら気持ちの中で矛盾を感じていないのが特徴です。

自然を尊び、太陽や月や星、更に巨樹や巨岩に縄を張り、畏怖と崇拜の念を抱きます。これは、一神教の世界では理解しがたい難しいところでしょう。こうした神仏を信じることに違和感を覚えない信仰の重層性こそ、日本人の持つ宗教の特質であります。仏教が伝来し昔は、神社の前で神前読経が実施され、やがて日本の神はインドの仏の生まれ変わりであるという神仏習合思想『本地垂迹』として受け止められてきました。

こうして江戸末期まで続いた日本仏教は、明治維新の宗教政策で「神仏分離」という悪政により、無理やり分けられてしまいました。この悲劇は今日まで及び、人々の神仏に対する混乱の基となっているのです。重なった神と仏の二つを信じる信仰を節操が無いとみるか、美しい特性と考えるか。でもこの特色にこそ、無意識的信仰として重層性のある日本人の宗教の特性です。

さて、戦後も随分と経ちますが、日本人の情操教育は公立学校では過去の悪いイメージをいまだ払拭しきれずにいます。教育の場に宗教を持ち込むことが避けられ宗教に対しての正しい見方、判断力を身につける機会を失っています。これでは小さい頃から生命の神秘性や自然に対する畏怖の念が育ちません。何でも科学的に割り切り判断する合理性のみが重視され、『見えないから、あるんだよ』と言う部分は何を意味するかという感情を養うことができません。そこでせめて家庭教育でこそ、この感覚を上手に大切にして頂ければと強く願うこの頃です。

人として生きていく事は苦しく大変なことですが、いまある生命はあたりまえの生命では決してなく、お互いに大切に支え合い感謝して生きていければと願うのです。

御礼

此の度、地元の永井隆雄様より自宅の庭にありました立派な石灯籠を、当山にご寄進戴きました。その石灯籠には

『奉獻 石燈籠兩基 東叡山 高嚴院殿 尊前
延寶九年辛酉八月五日 從四品侍從 土井能登守源利房』
と刻まれてあり、歴史を感じます。

有り難うございました。

注・西暦一六八一年

折りふしのはな

半夏生

二十四節気と七十二候の
半夏生(夏至から十一日頃)
半夏の咲く頃が半夏生
生薬の半夏と半夏生は
別の植物

ややこしや ややこしやく？
葉の一部が白いのので
片白草 半化粧とも
せみも鳴き始め これから
暑い夏がやって来ます
(遊)



月例行事案内

- ◎八日 午後二時 薬師如来祈禱会 観音経読誦
 - ◎十一日 午後二時 智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
 - ◎十八日 午後二時 観音経読誦法要(於・神木観音堂)
 - ◎二十八日 午後二時 不動明王護摩供修行
- * 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよい時にはご一緒どうぞ
- どなたさまでも
ご参詣下さい

7/8(土) ※要事前申込
「止観(坐禅)会」9:30-10:30(¥500)

随時ご祈願を 受付ております

- ・ 家内安全 ・ 交通安全
- ・ 社運隆昌 ・ 合格祈願
- ・ 息災 ・ 商売繁盛
- ・ 安産 ・ 身体健全
- ・ 旅中安全 ・ 心願成就
- ・ ぜんそく平癒
- ・ 癌病平癒 ・ その他

※木札一昧 金五千円也

◎一回向については
「相談下さい」

第36回 夏休み子供止観(坐禅)会 ご案内 <無料>

いままでコロナ禍で制限がありましたが本年より従来通り実施致します。8日間ですが、ご自由に参加下さい。大人の方も歓迎致します。五分前迄に受付をお済ませ下さい。

記

- *日 時 7月24日(月)~31日(月)
- *時 間 毎朝7時より7時40分まで
- *場 所 等覚院本堂にて

あとかぎ

○沖縄県糸満市摩文仁にある県立平和公園の「平和の礎」(二十四万二千四十六人)に刻まれた石板のスケールに、訪れた時のなんとも言えない気持ちは忘れ難い。6/23は「慰霊の日」。多数の住民を巻き込んだ地上戦から78年。その悲惨さと平和の大切を想う。

○昨年の認知症の行方不明者は一万八千七百九人で十年連続の増加で過去最多(23朝日新聞)。大半は一週間以内に見つかったとか。

○豪華客船タイタニック号(一九一二年・氷山に衝突して沈没)の残骸を見に行くツアーが6/22に事故。水深三千八百メートルの現場まで、四千メートルまで潜水可能とされる潜水艇に参加した五人は大富豪とか。

無謀のような探検に世界が注目。

○夏至(6/21)が過ぎ、半袖姿が多く見られるようになりました。梅雨も明ければ、今年も猛暑との天気予報です。暑い夏を楽しむ体力を身につけたいと思います。お体ご自愛下さい。

誰を誘って行かん四万六千日

楠本憲吉

合掌